

2017年 2月 1日

各 位

会 社 名 : 株式会社 ナ ガ セ
 代 表 者 名 : 代表取締役社長 永瀬 昭幸
 (コード番号 9733 東証JASDAQ)
 問 合 せ 先 : 取締役総務本部長 内海 昌男
 電 話 番 号 : (0422)45 - 7011

連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2016年4月28日付「平成28年3月期 決算短信」で開示した2017年3月期(2016年4月1日～2017年3月31日)の業績予想について、下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1 2017年3月期 連結業績予想の修正(自2016年4月1日 至2017年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	50,020	6,861	6,361	3,867	408.95
今回修正予想(B)	48,720	5,761	5,011	2,217	239.60
増減額(B-A)	△ 1,300	△ 1,100	△ 1,350	△ 1,650	—
増減率(%)	-2.6%	-16.0%	-21.2%	-42.7%	—
(ご参考)前期実績 (2016年3月期)	45,742	6,514	5,929	3,442	363.28

2 業績予想の修正理由

当社は、2014年12月に大学受験予備校「早稲田塾」を運営する、株式会社早稲田塾の全株式を取得し、連結子会社といたしました。AO・推薦入試の分野で優れたノウハウを有する早稲田塾のグループ化は、当社の高校生部門である東進ハイスクール・東進衛星予備校との相乗効果を期待したもので、この成果は講座の開発や生徒指導の面で徐々に具体的な施策として結実しつつあります。

一方で、独自の強みを活かした生徒募集や、一棟建中心で固定費比率が高い校舎展開の見直しなど、早稲田塾自体に関する収益構造の改善や強化の取り組みは、効果の発現まで一定の時間を必要とするため、未だ十分な成果を上げるには至っておりません。このため、2017年3月期の早稲田塾単体の業績については、売上高を中心に期初見込を大きく下回る見通しとなりました。

この影響を主因として、連結業績見込みで売上高1,300百万円、営業利益1,100百万円、経常利益1,350百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,650百万円の減少を見込み、修正しております。

※ 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。

実際の業績等は予想に内在するさまざまな要因等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上